

# 山行報告書

報告書作成

2007年8月21日

山名 [山域]	鈴が沢 [御岳]	目的と方法	沢登り
登山期間	8月20日(月)快晴	山行形態	日帰り
参加人数	2名		

## 行動記録

19日(日)

Kさん宅(2000) == 鈴が沢車止めP(2340)

20日(月)

P(600) -- 三沢橋(630) -- 三段大滝上(800) -- ガレ沢1900m(1230) -- 中股下降点(1415) -- 林道(1555) -- P(1640,1700) == 寝覚めのホテル(1800,1840) == Kさん宅(2210)

## 概念図



## 日誌

昨年から行きたい沢の一つに鈴が沢と言う沢があった。  
今回ようやくその願いがかなう時がやってきた。  
前日までの怪しい天気予報もふたを開けてみれば絶好の沢日和となった。

林道の車止め地点から歩くこと30分ほどで三沢橋に着き、ここから入渓する。  
中股との分岐には気づかず、そのまま東股を歩くと、林道の橋が現れる。  
時間がない場合はここから入渓しても十分かなと思った。  
途中へつり練習を交え、楽しい沢登りが続く。  
この沢の特徴はナメが多く、トイ状の滝が非常に多いことだ。  
もう少し、暑ければ、間違いなくウォーターライダーで遊んでいただろう。  
3段の滝はガイドブック上は右岸を巻くことになっていたが、我々は左岸に挑戦する。  
しかし、20mほど上がったところで泥のいやらしい斜面となったため、あえなく敗退。  
右岸を高巻くと20分ほどであっさり滝上に出る。  
ここからは美しいナメ床の連続で、期待を裏切らない沢を十分に満喫する。

左右に落ちるスラブ状の滝を越えた辺りから、水流がなくなり、30mの滝を目指す。  
しかし、歩けども歩けども現れず、とうとうハング状の行き止まりになってしまった。  
後でわかったことで、やはりこの沢沿いで正解だったのだが、来るときにどちらか迷った地点まで引き返す。  
ガレ沢を行くと、左手に小三笠山、右手に三笠山、そして正面には今年山スキーで登った御岳が地震で出来た痛々しい傷跡を伴いドンと現れた。  
ここから小三笠山を越え中俣に下降である。  
最初は比較的楽勝であったが、後半は倒木、アザミやとげつきの激藪地帯に突入する。  
2時間弱の藪こぎを濃密に楽しんだ後、中股をすたすたと降り、最初の林道で遡行を打ち切る。  
林道途中で親切な林業のお兄さんに拾われ、めでたく駐車場まで辿り着く。  
連休最後の楽しい贈り物を頂いた気分でした。